



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



『医療の質』の計測について

歯科病院長 榎 宏太郎

『医療の質』という言葉に、皆様は何を想像されるでしょうか。技能の高低、治療効果の大小、医療費対効果、EBM、安全性、など様々な項目を想起されるのではないのでしょうか。我々も、歯科病院で日常的に行われている医療が最善のものであるかどうか、その質的な側面を出来るだけ客観的に評価したいと考えております。



どのような症例でどのような治療をした場合、治療までの期間や患者負担はどのくらいであったか。このようなデータを分析することができれば、患者満足度の向上や安全性の確保につながるとともに、最適な効果を生む治療術式や無駄を少なくするシステムのヒントにもなります。さらには、歯学部にとって最も重要な点である、歯科医学として進歩させなければならない領域の存在を教えてくれるのではないのでしょうか。

医療の質を表す指標はクリニカル・インディケータと呼ばれる、一般的な病院で用いられているものには、患者比率、在院日数、死亡率、生存率、入院率などがあります。しかし、Art and Scienceと言われる歯科医療において、その質を評価するのは簡単なことではありません。とくに大学附属の歯科病院としての特殊性も考慮した場合、従来のものでは十分ではないように思われます。

そこで、現在、歯科病院では、下記の項目について検討を加えております。

1. 基礎体力評価としての代表的な疾患の治療内容に関する統計
例) 外科矯正症例の通院回数、入院期間など
2. 好ましくない転帰・事象に関する統計
例) 補綴物再製作数、治療費返還数など
3. 先進的な検査法や治療術式に関する統計
例) マイクロエンド症例数、光学印象症例数など
4. より高い病院機能の維持と評価のための統計
例) 医療安全に関連するインシデント発生率など
5. 臨床研修や学生教育の充実に関する統計
例) 研修医と指導医数、マッチング倍率など
6. 職場環境、職員関連の統計
例) ワクチン接種率、健康診断受診率など

7. 患者サイドからの評価

例) 患者満足度の出口調査など

もし、皆様も新しい歯科診療における指標としてのお考えやアイデアをお持ちであれば、是非、お寄せ下さい。お待ちしております。

昭和大学歯学部同窓会設立 30 周年 記念式典・祝賀会が開催されました

口腔解剖学講座(歯学部同窓会総務担当理事)
野中直子

4月19日(土)昭和大学歯学部同窓会設立30周年を記念して、式典・祝賀会がホテルオークラ東京で開催されました。4時からの式典は、開式の辞に始まり、飯島裕之歯学部同窓会長の式辞、続いて昭和大学小出良平学長をはじめ多くのご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

宮崎隆歯学部長には「新たなるチーム医療の一員として」というタイトルで記念講演をしていただきました。また各方面で活躍、貢献している同窓会会員72名に対し功労表彰式が執り行われました。

最後に昭和大学グリークラブの方々とともに全員で校歌を斉唱し閉式となりました。続いて5時より昭和大学管弦楽団の演奏で華やかに祝賀会が開会され、飯島同窓会長の挨拶に続き、東京都歯科医師会・高橋哲夫会長、衆議院議員とかしきなおみ先生、参議院議員・西村まさみ先生よりご祝辞、また多くの祝電をいただきました。乾杯のご発声は医学部同窓会・吉田文英会長にいただき、会食、歓談中は昭和大学メディカルオールスターズ OB の皆様による演奏と昭和大学アカペラ部 Long Flags の歌声が披露されました。式典・祝賀会には名誉教授をはじめ、現職の教授にも多数ご出席いただき、同窓生を含め450名以上の盛会となりました。出席した同窓生がひとつになり、昭和大学歯学部への母校愛を再認識したひと時でした。昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」を忘れず、昭和大学そして歯学部と歯学部同窓会のさらなる発展を祈り、1回生の高橋浩二先生の音頭で万歳三唱をして閉会いたしました。



昭和大学学術業績リポジトリの運用が開始されます

歯学部研究活動委員会 上條竜太郎

リポジトリは、大学及び研究機関等において生産された電子的な知的生産物を保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫で、既に国内外の非常に多くの教育・研究機関に設置されています。本学も「昭和大学学術業績リポジトリ運営委員会」を設置し、本年10月の運用開始を目指して準備が進められています。本学のリポジトリに保管されるのは、いわゆる研究業績(原著論文、総説、著書など)、学位論文(博士)、研究費取得状況等です。

これに伴い、昭和大学研究業績データベース(SRDB)の運用は既に終了しており、昭和歯学会(現昭和大学学士会)が作成してきた歯学部研究業績集の編纂も、今後は行われません。詳細については改めてご報告致しますが、ご不明の点は昭和大学図書館にお問い合わせ下さい。

D3 地域連携歯科医療実習Ⅱトライアルを実施しました

歯学教育学部門 片岡竜太

「超高齢社会の到来に対応できる歯科医師を養成するため」に本学が幹事校となり北海道医療大学、岩手医科大学と蒲田・大森・目黒区・荏原・品川歯科医師会、札幌・北海道歯科医師会、盛岡市・岩手県歯科医師会が連携して、平成24年から文科省大学間連携共同教育推進事業を進めています。本学の学生は昨年度から新規に開設されたユニット「D3チ



ーム医療と口腔医学Ⅰ」(10コマ)「D4チーム医療と口腔医学Ⅱ」(16コマ)でITを活用して、高齢者に多い基礎疾患、服薬、口腔乾燥症および地域で多職種が連携して行うチーム医療について学んでいます。地域歯科医療の現場に赴き、歯科医療のあり方や様々な側面に触れ、自ら見て、感じて、考えてという過程を踏み、教室で学んだ事理解を深めるため、D3地域連携歯科医療実習を今年度から必修化します。学生は1年生で山梨県歯科医師会の先生方のご指導をいただき、歯科医院見学実習を行っていますが、3年生が参加する本実習では、大学周辺の歯科医師会の先生方のご指導をいただきます。より良い実習内容や実習の進め方を検討するために、14の歯科医院と14人の学生(D3 11名、D4 1名、D5 2名)に協力してもらい3月11日(火)、18日(火)に各歯科医院で始業から終業まで歯科医院体験実習トライアル

を実施しました。4月10日(木)に選択実習中の6年生を除く12名の学生と10名の歯科医師会の先生方、18名の教職員が参加して実習報告会を実施しました。学生は始業の準備やミーティングから始まり、歯科医師の介助、在宅医療への同行、調剤薬局へ患者に付き添い、地域に根ざした歯科医療の実際を体験すると同時に、歯科衛生士などのスタッフとのチームワークさらに先生方の生きがいなどを含めた人生についても学んで来たことが伺えました。

学生が卒業後、臨床研修医あるいは新人歯科医師としてご指導をいただく歯科医師会の先生方と一緒に、超高齢社会に対応できる学生を養成し、より社会のニーズに応える医療人を育成するために教育の充実を図って行きます。10月から本実習のオリエンテーションが始まります。よろしくご指導をお願いします。

D3 地域連携歯科医療実習Ⅱトライアルに参加して

歯学部4年 嶋田百合

この度、きよみ歯科クリニックにて3月11日、18日の2日間にわたり、朝の8時半から19時まで約11時間半の実習を行わせていただきました。院長の逸見きよみ先生は昭和大学の卒業生でいらしたので、卒業後に活躍する先生の姿を間近で見させていただきました。

私が実習にあたって目標としましたのは、「歯科医院での診療の見学」そして「将来の仕事のイメージをつかむこと」でした。前者については、歯髄炎の治療などのさまざまな症例を見学して、当たり前のことですが大学の授業が現場に直結していると感じ、大学で学んだ内容をしっかり身に付けていかなければならない、という思いを新たにしました。さらに、後者の目標については、今回、歯科医師もスタッフもほとんどが女性というクリニックでしたので、女性として歯科医師を続けていくということの極意のようなものを教えていただいたように思います。例えば、こちらの先生は、患者様に良い治療を提供すること、そして患者様の不安を取り除き、患者様の満足を自分の満足とする「おもてなしの心」を大切にすること、その両方を見事に両立されていました。この二本の大きな柱があつてこそ、このクリニックが患者様から支持され、喜ばれているのだと感じさせられました。

女性歯科医師ならではの気遣いと工夫で患者様を幸せにして、そして自分も有意義な人生を送れると



たら、こんなに素晴らしいことはないと思います。今回の実習では、今後の勉強のみならず、私の人生にとって大切なことを学ばせていただきました。

この体験を大切に今後も努力していくとともに、いつかは自分も実習の学生をお迎えできるようになれるような人になりたいと考えています。

ブリティッシュコロンビア大学への春季 交換プログラムに参加しました

歯学部6年 道家 碧

2014年4月5日から5月2日までの4週間、私たちはカナダのバンクーバーにある、ブリティッシュコロンビア大学(UBC)に行ってきました。2年前に(4年次)、一度交換留学に訪れた学校で現地の仲間たちと再会し、自分たちの成長や今後の歯科医療についての展望を語り合う素晴らしい機会となりました。今回は日本で1年間の登院実習を終えた後だったので、臨床を全く知らなかった前回と比べ、成長して得た新しい見地では見えるものが全く違いました。

カナダでは歯科大は4年制で、3、4年生から実際の患者さんの診療にあたります。2年前と一緒に講義を受け、親睦を深めた現3年生たちが実際に患者さんに対して患者説明や診療を行う姿を見て、その成長を非常に頼もしく思いました。しかし、同時に5年の臨床実習を経て、未だに患者さんに対してう蝕の治療さえまともにこなしたことがない今の自分に、置いて行かれてしまった焦燥を感じました。その他に、UBCにインストラクターとして来ているアリアクバリ先生の開業歯科医院に一日見学に行かせてもらうことができ、地域の歯科医療についても知ることができました。また、同時期に留学していたペルー、インド、福岡歯科大学の留学生や、イラク、イラン、シリアの自国で歯科医師免許を取得した後UBCに編入した学生との交流も深めることができました。

4週間の滞在で学んだバンクーバーや他国の歯科医療、感じた将来への期待や現状への焦燥感を糧に立派な歯科医師になるための学習を続けようという決心をしました。



英文 Newsletter vol. 7 発行

平成25年度広報委員長 井上富雄

第7号の表紙は富士吉田校舎から見た富士山で、富士吉田教育部 前田昌子講師(平成14年歯学部卒)の撮影です。富士山は昨年、世界遺産に登録されましたが、表紙をご覧になって富士吉田の1年生の頃を懐かしく思い出される先生方も多いのではないのでしょうか。掲載記事の内容は、宮崎学部長の巻頭言、自然教育園などが整備された富士吉田キャンパスの紹介、歯学部英文ホームページ、歯科理工学部門堀田講師(現准教授)の韓国で開催されたISO専門医委員会歯科部門への参加、6年次学生 橋本アメリカさんのマダガスカル口唇口蓋裂医療協力への参

加、5年次学生 中井健人君の TRAVEL AWARD 授与による国際学会の参加・発表、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業によって整備された多光子共焦点レーザー顕微鏡の紹介、中国から本学大学院に進学されている鳥 日翠さんの紹介、国際交流センターの活動、インドから来られて本学で研修されている Mundinaman 先生の紹介、Nature Immunology に掲載された口腔解剖学講座 中村教授の論文の紹介、昭和歯学会報告です。Newsletter 第7号は海外学部間提携校や国内の4大学交流校を始め、昭和大学各部署に配布すると共に、昭和大学歯学部ホームページ

http://www.showa-u.ac.jp/sch/dent/dent_letters/index.html に掲載いた



しましたので、是非ご覧ください。また、別刷りが国際交流センターに保管されていますので、是非、海外交流などの際には、ご活用ください。

英文広報委員: 宮崎 隆(歯学部長)、井上富雄(平成25年度広報委員長)、飯島毅彦、桑田啓貴、Michael W. Myers、堀田康弘、野中直子、松田幸子、坂井信裕、滝口 尚(敬称略)

富士吉田自然教育園が改修されました

富士吉田教育部 前田昌子

2月、富士吉田校舎は記録的な大雪に見舞われました。富士吉田自然教育園の入口周辺にも除雪された雪が山と積まれ、一時期は門が行方知れずにしばらくは閉園を余儀なくされました。それも今では跡形もなくなり、遅い春の訪れとともに再び園の活動が始まりました。

昨年度の開園以来、少しずつ整備の進んでいた園内には小川や階段、小さな池が作られ、ウッドチップの敷き詰められた遊歩道はフカフカと跳ね返り、気持ちよく散策ができます。まだまだむき出しの状態ですので、これから草木が成長して目にもいっそう鮮やかになることでしょう。



今年は畑にもハーブエリアを整備する計画で、現在のところ品種を選定中です。ゴールデンウィークには桜の花びらが舞うなか有志の学

生さんたちと小松菜、枝豆、なす、キュウリ、ひまわりなどたくさん種を蒔きました。日々成長していく新芽を眺め、今から収穫が楽しみです。

ITI ワールドシンポジウム大会に参加しました

歯科補綴学講座 樋口大輔

表記シンポジウムが4月24～26日の日程でスイスのジュネーブで開催されました。ITI (The International Team for Implantology) は1980年に設立された団体で、現在会員数は1万人を超えています。今回のシンポジストには



T.Albrektsson, HP.Weber, D.Buserなどインプラント界の重鎮を迎え、世界33カ国から3300人が参加しました。メインピックは、初日がデジタルインプラントデンティストリー、2日目が合併症の予防と対処法、3日目が審美治療の限界でした。サージカルステントを用いたガイドドサージェリーは埋入シミュレーションに基づいた正確な埋入が行われるといわれています。しかし、この精度については2007年に開催されたEAOですでに疑問視されており、その後多くの論文で議論されてきました。今回のシンポジウムでもメインピックの一つとして活発な討論が行われました。

なお、今年度からインプラント学講座の尾関教授をディレクターとした ITISC (ITI 公認のスタディークラブ) を立ち上げました。第一回目は6月20日(金曜日)に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

CBTワークショップが開催されました

共用試験 CBT 実施責任者 北川 昇

快晴の5月10日(土曜日)に旗の台1号館7階講義室とPBLルームにおいて、平成26年度共用試験CBTワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から天野 修先生(明海大教授)、森田学先生(岡山大教授)をタスクフォースにお招きし、宮崎歯学部長、井上教育委員長のご挨拶の後、ワークショップが開始されました。参加者は22名でした。

午前中は、CBT 作問時の注意事項と良問・悪問について A・L・W・Q 問題についてそれぞれのレクチャーがありました。午後は、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各自の問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。今回の参加者は若手の先生が多く、各グループとも大変活発な討議が行われ、充実したワークショップとなりました。特に W 問題をターゲットにしたブラッシュアップでは、昭



和大学の強みである基礎と臨床の連携を再認識することが出来ました。

最後に参加者全員に修了証が授与され、関係者としては次年度の採択率が少しでもアップする事を祈りつつ、ワークショップは無事終了しました。

大田区区政功労者表彰を受賞しました

口腔衛生学部門 内海明美

平成25年度大田区区政功労者表彰(区立心身障害児通所施設嘱託医)を受賞しました。この表彰式は、大田区が毎年3月に行っている周年行事で、区政に貢献し、区民生活と文化の向上に特に功労のあった個人と団体に贈られるものです。私は平成15年4月から、こども発達センターの摂食指導に非常勤医として月1-2回携わってきましたが、当施設からの選考は初めてと伺い、大変緊張しながら表彰式に出席させて頂きました。地域自治会や民生委員、消防団など様々な分野からの受賞者の皆様の中で、歯科では学校歯科医の先生方のお名前もありました。松原大田区長から、直接表彰状と記念品を贈呈され身の引き締まる思いでした。発達障害児の歯科治療については、歯科病院のスペシャルニーズ歯科センターと連携を強化しながら、今後も地域の発達障害児の口腔保健に寄与していきたいと思っております。

昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

深田俊幸 助教(口腔病理学講座)、
飯田知芙美 助教(歯科矯正学講座)

行事予定

広報委員長 中村 雅典

6月 5日(木): D2防災訓練
6月14日(土): 父兄会総会
6月21/22日(土、日): 富士吉田寮祭
オープンキャンパス
6月28日(土): 昭和学士会例会(歯科病院)
7月23日(水): 4学部合同オープンキャンパス
7月26日(土): 歯学部オープンキャンパス
7月29-31日(火-木): 昭和大学教育者のための
ワークショップ

編集後記

口腔衛生学部門 内海明美

GWも終わり、ようやく穏やかな気候になったかと思いきや、早くもゲリラ豪雨の襲来となりました。朝晩の寒暖差もありますので、どうぞ皆様、体調管理にはご留意ください。お忙しい中、御寄稿頂いた皆様に、感謝いたします。